

平成31年2月14日

保護者 様

授業アンケート実施結果について（御報告）

山口県立徳山高等学校
校長 須藤 恒史

平素から本校教育の推進に御理解と御協力を賜り、ありがとうございます。

さて、本校では「分かる授業及び興味・関心を高める授業の展開」を目標として、生徒による授業アンケートを毎年実施し、授業改善を進めており、今年度も昨年のアンケートの結果を基に、各教科の授業研究会や互見授業等を実施して、教員の授業力向上に取り組んで参りました。また、SSH、次世代型教育パイオニア校として先進校視察や研究大会参加等による研修を実施し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けてアクティブ・ラーニング型授業について詳しく学ぶことができました。

その中で、5月12日（土）のPTA総会時及び10月24日（水）に実施した公開授業では、感想として「英語の授業では、しっかりと音声による練習がされており、先生との掛け合いによる会話もたくさんされており、とても良かった。」「先生が生徒一人ひとりに合った丁寧なアドバイスをしていたのが印象的だった。」「ポイントが明確に示してあるワークシートを用い、適宜生徒に問いかけをして考えさせながら授業が進められていた。」などの御意見をいただいております。今後も引き続き各教科において生徒の主体的な学びを醸成しながら学習意欲の一層の向上と、学習内容の確実な定着を図っていきたくと考えております。

今年度の取組を検証するために、11月に授業アンケートを昨年と同様の様式で実施しました。集計ができましたので下記のとおり御報告します。

記

1 集計結果

(1) 質問項目

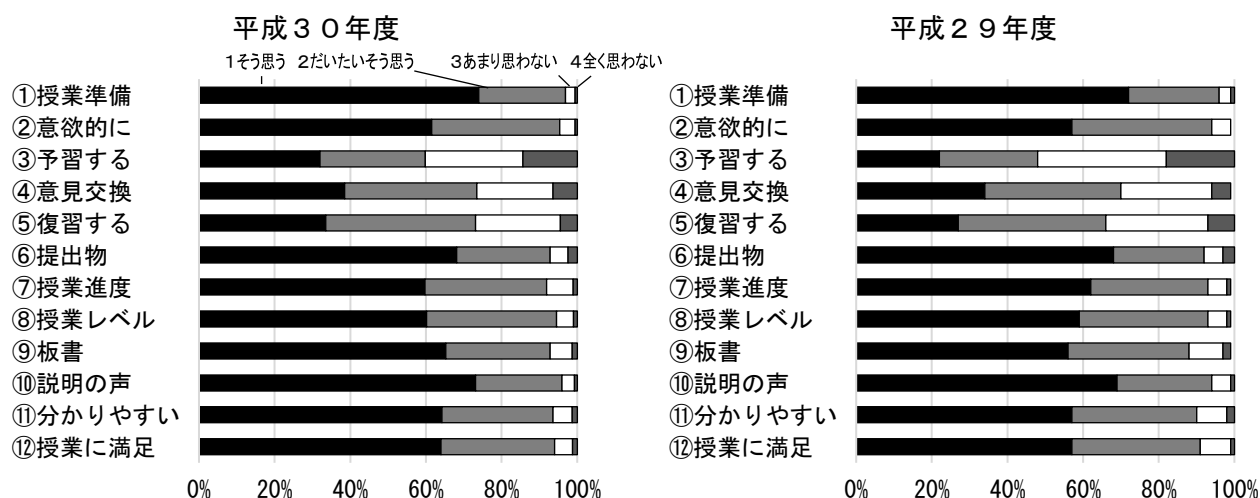
生徒の自己評価	授業内容の評価
①授業が始まる前に準備を済ませている	⑦授業全体の進度はちょうどよい
②授業には意欲的に取り組んでいる	⑧授業内容のレベルはちょうどよい
③授業の予習はしっかりやっている	⑨板書はわかりやすい
④先生の質問に対して友人と積極的に意見を交換したり発表したりしている	⑩説明する声は聞きやすい
⑤授業の復習はしっかりやっている	⑪授業はわかりやすい
⑥宿題や提出物をきちんとやっている	⑫この授業を受けて満足している

(2) 回答方法

4件法（1:そう思う 2:だいたいそう思う 3:あまり思わない 4:全く思わない）による選択

(3) 国語・地歴公民・数学・理科・英語の5教科の集計結果

全校生徒の結果を集計し割合で表したグラフを下に示します。



2 結果の分析

(1) 生徒の自己評価について

肯定的回答（そう思う、だいたいそう思う）の割合で見た場合、授業にはきちんと準備をして臨み、授業には意欲的に取り組んでいることが認められました。宿題や提出物の状況も概ね良好な回答が得られました。一方で、予習、復習をしていると答えた生徒が6～7割にとどまっています。同項目では「そう思う」とはっきり答えた生徒の割合が昨年度に比べて増加しています。これを踏まえると、生徒間で予習・復習の取組の差が大きくなっている状態も予想され、学習習慣の一層の向上に向けた取組を進めてまいりたいと考えています。

(2) 授業内容の評価について

昨年に引き続き高い割合で肯定的回答が得られました。特に板書や授業の分かりやすさに関して、「そう思う」と答えた生徒が増加しており、誰にでも分かりやすい授業に向けた工夫が一定の成果をあげていると思われます。一方で、授業進度や授業レベルでやや肯定的回答が微減しました。理由については「進度が速い」あるいは「授業が難しい」とした回答と、「遅い」「易しい」とした回答のどちらも見られました。日々の授業で、生徒一人ひとりの学びの状況を観察し、次の授業の指導に生かしていく「指導と評価の一体化」を推進し、授業の進度やレベルはもとより、学習内容の学び方についても工夫、調整をしてまいります。

なお、体育・芸術・家庭・情報の4教科については、紙面の都合でグラフの掲載は割愛させていただきますが、ほとんどの項目で肯定的回答が多い結果を得ています。

3 今後の取組

「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、ICTの有効活用や、自らの考えを表現し他者との対話を通して自らの考えを改善する学びの場を取り入れることが大切となります。授業で生徒が自由に発言できる雰囲気や環境をつくり、グループワークやディスカッションの手法を積極的に取り入れて授業改善を推進していきます。今後も、これまで同様に授業アンケートの結果に基づいて、各教科において授業改善に向けた取組を進め、「わかる授業及び興味・関心を高める授業の展開」のさらなる推進をめざして学校全体で取り組んでまいります。保護者の皆様の御理解、御協力をよろしく申し上げます。